

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年4月7日(火)

### 《正しい知識 ~人を生かせる知識~》

子どもの頃から、聖書の話で理解できなかったことは、ユダについての話です。

なぜこの人はイエス様を裏切らなくてはならなかったのか。なぜ十二人の弟子達の中で選ばれたのがユダだったのか。ユダは、なぜイエス様が十字架の道を歩むために必ず必要な、劇の道具のような存在だったのか。そして、結局その道を歩んだ後自殺をして、2000年たった今でも裏切り者のシンボルになってしまったのか。神様は、慈しみ深いと言いながらも差別をしていることになるのではないか。

そのようなことに、子どもの頃、迷いがあり、司祭やシスターに質問をしました。すると、ただ信じるようにと言われ、自分が司祭ならばこういう言い方はしないと覚えています。

皆様はどう思われますか。神学校で勉強し、今まで自分なりに考えたことを申し上げます。この問題については、人間の頭では正しい答えはできないと思います。完璧な答えは、私たちが死んで神様のところに行き、神様に質問したら神様が説明してくださると思います。ただ、神学的に申しあげられることをお話しします。

この福音の中に、ペトロの話もよく出てきますが、十二人の弟子達の中で裏切らなかつた弟子は一人もいませんでした。ただ、裏切って悔い改めたか、そうではなかつたか、によって全然違ってきます。使徒ペトロの場合は、にわとりが鳴く声を聞いて、「にわとりが鳴くまでに三回私を裏切る」と言ったイエス様の言葉を思い出して激しく泣いたと書かれています。そして激しく泣いたにも関わらず、怖くて十字架の道までついて行けなかつたのです。そしてイエス様が復活されたと聞いてからも、隠れて臆病のような姿を見せていました。聖霊降臨の後、外に出て、怖がりではない大胆な心でイエス様について述べ伝えたのです。

私が今まで神様について、イエス様について、理解した事柄から考えると、イスカリオテのユダも自分で決めたのだと思います。裏切りの道を拒むことは十分に出来たと思います。しかし、彼はそれを拒まなかつたのです。十二人の弟子達の中で、自分から足を運び、弟子にしてくださいと願ったのはユダ一人だけだという聖書学者らの話があります。他の十一人は全部選ばれました。「私について来なさい。」「あなたを人をとる漁師にしてあげよう。」などと言われて弟子になったのです。しかし、ユダの場合は、いろいろな噂を聞いて弟子になったのです。ユダは、ローマの支配下にいたユダヤ人でした。彼は、民族がローマから解放されて、神様の国として繁栄してほしいという強い望みを持って独立運動を起こしたグループの一人だったと伝えられています。そして神学者によると、彼は幾つかの言葉が出来る人でした。十一人の弟子達はみんな勉強することのできなかつた漁師達でした。しかしユダは、勉強をしていて、計算もものすごく速かつたそうです。そして、イスラエル人は昔から救い主を待っていました。そのときユダは、今まで見たこともない人物がいろいろなことをしているという噂を耳にしたわけです。そしてイエス様を見たわけです。この人ならばたぶん民族を解放してくれるだろうという気持ちで、自ら弟子になりたいと希望しました。しかし、時間がたってみるとイエス様には、民族を解放させる様子が全然見えなかつたのです。"右の頬を打たれたら左の頬も差し出さない"、"敵を愛しなさい" というように、ユダが今まで考えた民族に対しての愛とは全く反対のことをするイエスの姿を見て、まずユダが先にイエス様から裏切りを感じたのでしょう。イエス様に対して、この民族を救うための先生になってくれると思ったのにもかかわらず、いつも反対の道を歩む姿。それで自分なりの決断をしたのでしょう。これも推測です。

皆様、間違えて得た知識は人を殺します。知識を頭に入れる時には、その知識が本当に正しいものか、人を生かせる知識か、それを識別する知恵が必要です。歴史を見て、間違えた知識がたくさんの人々を困らせたことが何度もあることを私たちは知っています。

マルクスもヒトラーも神学校の出身です。

間違えて勉強し、間違えて理解してしまったら、自分も他の人も、生かすのではなく、殺してしまうというとても大きな危険性があることをこの福音をとおしてもう一回考えてほしいです。

たぶんユダが裏切らない方法はたくさんあったと思います。しかし、悪魔の誘惑に負けたのでしょう。ユダにそのような心を持たせたのも悪魔だったのでしょう。自分が持っていた知識が罠になってユダを陥らせたのでしょう。

ありがとうございました。